



いつか、愛ある手垢のついた劇場に。

芸術監督
野田秀樹

東京芸術劇場開館25周年を迎えて

25th Anniversary Tokyo Metropolitan Theatre



2009年から芸術監督に就任。

第一線を走り続ける現場感覚と国際感覚、芸術への深い造詣から生まれる数々の提案は、東京芸術劇場の印象を明らかに変えている。

潜在的な観客との出会いの場へ

芸術監督に就任することになって、何人もの知り合いに、東京芸術劇場についてどう思うかリサーチしました。結果は残念ながら「使いたい」「観に行きたい」という声がほとんど聞かれないものでした。まずは「使いたい」「観に行きたい」と思ってくれる人を増やすこと。就任会見で「賑わいと彩りのある劇場」にしたいと言ったのはそのためです。

2011年春から大規模な改築工事があり、1年半という長い休館期間がありました。その甲斐あって、より使いやすい、また、観やすい劇場になったと思います。僕は主に演劇の仕事をしているので、改修前のコンサートホールについてはあまりわかりませんが、現在はプレイハウスと呼ばれている中ホールは、集中力のない空間でした。横に長く、なぜか中央に柵のない通路がドンと広がっていて、演者側からするとどこを覗いていかわからないつくりで、非常にやりにくかったんですが、両側の床を少し高くし、中央の通路も狭くするなど、かなり改善されました。他のホールも、完璧ではありませんが、いろいろと工夫してもらいました。

ソフトに関しては、いわゆる貸し出し専門ようになっていたこの劇場に発信機能を持たせたいと、外部識者による企画会議をつくったことが良かったと思います。今年亡くなられた演劇評論家の扇田昭彦さんもそのおひとりでしたが、前向きで、同時に、ある意味とても趣味が偏っている人達が集まった。一方向では困りますが、さまざまな方向に偏っているので、なかなかおもしろいことになっています。劇場が扱うのは芸術ですから、バランスが取れているだけで熱のないものがいくら出てきてもつまらない。多少いびつでも、熱のあるものを発信していくことが大事だと思っています。

この6年間で特に印象に残っているのは、2011年3月の東日本大震災です。NODA・MAPの「南へ」を中ホールで公演中で、直後は休演せざるを得なかった。それでも3日目くらいから上演を再開したいと話をし、3月15日からなんとか再び幕を開けることができました。余震もあり、計画停電も行なわれていて、またその頃には原発事故による風評などで動揺も広がっていましたが、カンパニーは——内心は不安な人もいたかもしれませんが——、全員

が「やります」と言ってくれました。そういう時に来てくださるお客さんは、やはり覚悟のようなものがあって、特に15日の公演は、実際にそういう経験がなかったんですが、まるで戦時下で演劇をやっているような緊張感がありました。節電や安全を優先するべきという意見も聞こえていましたが、過剰な自主規制によって「今は演劇などを観ている場合ではない」という空気が蔓延して、劇場の灯が消えるのは絶対に良くないと思ったのです。

今後について言えば、理想のイメージはあります。例えばリニューアルする前の歌舞伎座の奈落は、かつては人力でセリを動かしていましたから、柱などが数えきれない人の手垢で汚れているんですけども、歌舞伎を好きだった人達が長い時間をかけて遺してきた魅力がありました。新宿の紀伊國屋ホールも、この劇場は使った人にも観に来た人にも愛されてきたんだという確かな風合いが染み付いています。それが劇場が持つ本当の力であり姿だと僕は思う。そういう味わいが、東京芸術劇場にも生まれたいですね。自分自身にも課題はあって、素晴らしい人達に東京芸術劇場で公演をしてもらっているのに、海外での仕事などもあるため、なかなか自分の目でその公演を観ることができない。この劇場で公演をしてくれた人達とも、もっと交流を持ちたいですね。

最近の芸劇は、公演を観にくる人だけでなく、多くの人が集まり、行き来する場所になってきていると思います。先日、東京オリンピックに向けた『東京キャラバン』というイベントを駒沢公園で行いましたが、演劇やパフォーマンスや音楽に興味のある人は、まだまだ潜在的にいると感じました。そういう人達がここで芸術に出会い、愛着を持って通ってくれるようになれば、劇場として新しい可能性が生まれるのではないのでしょうか。

2015年・秋
聞き手・構成：徳永京子 写真：渡部孝弘(左ページ)

野田秀樹 HIDEKI NODA

のだ・ひでき 1955年、長崎県生まれ。劇作家・演出家・役者。東京芸術劇場芸術監督、多摩美術大学教授。東京大学在学中に「劇団 夢の遊眠社」を結成。92年劇団解散後、ロンドンへ留学。帰国後の93年に演劇企画制作会社「NODA・MAP」を設立。以来「キル」「赤鬼」「パンドラの種」「THE BEE」「ザ・キャラクター」「エッグ」「MIWA」などの話題作を発表。歌舞伎「野田版 研辰の討たれ」などで、故中村勘三郎丈と組む、好評を博した。国内のみならず海外でも精力的な創作活動を展開。15年11月、モーツァルト歌劇「フィガロの結婚〜庭師は見た!〜」を演出、全国10カ所で行った。16年1月〜4月NODA・MAP最新作「逆鱗」を上演予定。

NODA・MAP 第20回公演「逆鱗」 作・演出 野田秀樹
www.nodamap.com/

特集はP1へ